

集落協定 かわら版 (第41号)

(平成25年1月16日 山口県農業経営課)

平成24年度新規締結協定をご紹介します！



入野集落協定
面積 6.5ha
急傾斜 5ha 緩傾斜 1.5ha
参加者 農業者 7人、非農業者 2人、特定農業法人 1
交付金 1,169千円
共同取組活動 50.1%

「山口県中山間地域等直接支払制度検討会」(県の第三者委員会)の委員である山口県連合青年団の金子嵩史さんが、光市塩田の入野集落協定を取材しました。



取材風景

自治会 + 新規協定で 集落環境の美化促進！

・・・光市入野(いりの)
集落協定・・・

今回は、光市大字塩田の入野集落協定にお邪魔しました。

入野集落協定は、平成24年度に新規に設立された出来たてホヤホヤの集落協定です。

協定代表の重近さん(69歳)、担い手リーダー清水さん(68歳)、書記高橋さん(69歳(農)石城の里代表)、小山さん(70歳)からお話を伺いました。

皆さんの営農状況は？

ここにいる協定役員の多くが、以前は会社勤めで、農業は土日に手伝う程度でしたが、定年を機に専業で農業をしています。

協定は今年度からですね？

当協定は、平成24年度に新たに設立しました。県周南農林事務所の研修会で知事特認の要件緩和があることがわかり、市役所からの投げかけもあり、取り組むことになりました。

入野集落は田を荒らさないでこれまでやってきていたので、中山間直支制度に取り組んでいくことは難しくないと思って、やり始めています。



協定全景を示す重近代表

取組を始めてどうですか？

隣の集落からは、「最近（この集落は）きれいになったね」と言われます。

これは、自治会で行う清掃等の取組範囲外の場所について、新たに直支協定が共同取組活動として、管理し始めたためだと思います。自治会長も非農家として、協定に参加しています（笑）。自治会＋直支集落協定で集落環境がより良くなってきています。

活動の特色は？

共同取組活動で「行者社（ぎょうじゃしゃ）」周辺の整備をしました。行者社は、昔、集落に火災が多発していたのを鎮めるために山の上に設けられたものだそうです。近年お参りしやすいように集落内に移設しています。

また、体制整備単価（10割単価）をC要件で取り組んでいます。サポート者として、法人の（農）石城の里が入っているのが強みです。



移設した行者社周辺を整備

法人の活動を教えてください。

組合員は110人です。県周南農林事務所の指導で、平成23年2月に法人を立ち上げました。地区全体の農地77haの内、今は約25haを経営していますが、今後はまだまだ増える予定です。

鳥獣被害はありますか？

イノシシとサルがいます。近年被害が拡大してきています。

集落内の道路は、夜、イノシシ銀座通りと化し、その辺を散歩しています（笑）。集落全体を囲うのは、道があって難しいので、個々の農地を柵で囲って防いでいます。箱ワナもありますが、農地内の設置ではうまく入らないので、少し山の中に入ったイノシシの通り道に設置するようにしています。

サルは3群程度で合計90頭近くいるかと思います。猟銃装備の駆除隊がいるのですが、あのオレンジ色の服（狩猟用ベスト）を着ていくとサルはすぐに逃げて山の中でじっとしてしまいます。反対に普段着の人だと、サルは安心して良く出てきます（笑）。我々は、ロケット花火を打ち込んで追っ払うの

ですが、すぐまた出てくるので、こちらにも負けずにまたロケット花火を打ち込みます。人とサルの根比べです(笑)。



協定風景

集落や協定の後継者は？

息子が帰ってきて、農作業を手伝うことはありますが、自分がリタイアした後は、息子達は農業をしないだろうと思います。集落の後継者対策は、法人に若い人を入れることだと思います。60歳でも十分に若い方ですよ(笑)。

法人としての後継者対策は？

法人に定年後の人を誘って、仲間になってもらえばいいと思います。本音では農業の経験者が欲しいですけど、贅沢は言えません。農業機械の扱い方などを教えて、オペレーターを育てていきたいと思っています。法人はボランティア精神がないとやっていけないので

すが、地域の荒廃を防ぐ砦となりがんばりたいと思います！

ところで、集落協定の代表はどうやって決めたのですか？

私(重近代表)が、集落で唯一の認定農業者だから、みんながやれというので・・・(笑)。皆がよく協力してくれるので、安心しています。私がやるのは、毎月会合日を決めて、それを開いて皆で意思疎通することです。大体が、すんなりと決まります(笑)。

今後の抱負を聞かせてください。

これからも入野集落の農地が荒れないように、秋には黄金の絨毯を作っていきたいです。限界集落になっていかないよう、集落を活性化させたいです。将来は、共同取組の活動範囲を広げたいです。

中山間直支制度への要望は？

立ち上げには苦勞しているのですが、制度の第4期対策も続けて欲しいです。制度がなくならんようお願いします。



金子委員(一番右)と協定の皆さん

～取材を終えて～

山口県連合青年団 金子嵩史

今回は、光市の入野集落協定にお伺いし、いろいろなお話を聞かせていただき、大変勉強になりました。

入野集落協定は、自治会の総会で直支制度に取り組むことが決まり誕生しました。協定の共同取組活動範囲は、自治会で手の届かないところを担当しています。

協定の共同取組活動をしていくと、最近、前よりはきれいになったなど、集落外の人から言われるようになり、草刈りの回数が増えたり、また隣がやってくるから我が家でもということがあったりして、集落環境がどんどん良くなる相乗効果もあるそうです。協定では、共同取組活動で他にもっと何かできないかと、動き出しているようです。

その一方で、都市に近くパートなどの仕事先が多くあるため、地元の女性に農作業の協力をお願いしにくかったり、30～40代の息子さんなどとの同居例が少ないため、若い担い手がいなかったりと課題もあるようです。集落では、定年された方々を仲間に引き入れたり、息子さん世代の人たちにも田植えや稲刈りの時期には帰郷し、手伝っ

てもらうなどの働きかけもしています。

私は萩市の田舎の方に住んでいますが、職場は山口市です。実家は農家ですが、田植えや稲刈りなどの時期しか手伝うことができません。みんなが集まれる時期を使って2世代もしくは3世代で何かできれば、地域が活性化し、より住みよい地域づくりへと発展し、農業などとも連携をはかりながら取り組めるようになるのではないかな、と思いました。



★★★★★ 編集後記 ★★★★★

これからも、自治会との連携活動を継続され、入野集落が更に活性化していくことを期待しています。

取材では大変お世話になり、どうもありがとうございました。

★★★★★ お知らせ ★★★★★

集落協定かわら版バックナンバー
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17200/chiikiagri/otasukesiryoushu.html>

山口県農業経営課 中野・石川
電話：083-933-3350

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★